

【ハイチ大地震災害救援 ERU 第1班】

国際救援課主事 リテルスポーン・キンイチ

1月17日から3月22日まで、災害救援でハイチに行ってきました。ハイチ入りしたのが1月19日、地震が発生してからちょうど一週間の時でした。首都ポルトープランスでは多くの建物が倒壊し、混乱しているなか、1月25日に現地の国際空港付近でテントを設営し、クリニックとしての活動を開始しました。その後、クリニックが軌道に乗り、活動を徐々に予防接種キャンペーン、そして巡回診療に広めていきました。

私の活動内容は2か月の間、ローカルスタッフの雇用や管理、クリニック運営にかかる作業など事務管理要員としての仕事のほか、ハイチがフランス語圏であるため、日赤チームと現地スタッフ間の通訳にもあたっていました。

今回初めての派遣にもかかわらず初動班として現地入りし、クリニック立ち上げから軌道に乗るまでの過程、活動の発展、また初動班から2班への活動の展開等の貴重なプロセスを経験でき、非常に刺激の多い、有意義な2か月間でした。また、多くの赤十字チームが同じ場所に集中し活動していることも、国際赤十字運動のメカニズムを知るにはとても有効でした。今回のミッションで学んだことは多く、今後につなげていきたいと思えます。

ハイチの一日も早い立ち上がりを、心よりお祈り申し上げます。

